



チェンジ・デザイン・アワード2021

「仕組み」を変えれば、「行動」が変わる！

取組事例集

三重県では、「みえの輝く女子プロジェクト」と称して、県内の働く場において、女性が活躍できる職場環境づくりの支援を行っています。

この度、社内の「仕組み」を変えることで女性の活躍につながった事例を公募・表彰する「チェンジ・デザイン・アワード2021」において、「テレワークによる職場環境の改善事例」をテーマに取組事例を募集し、グランプリ・準グランプリを授与させていただきました。

この事例集では、受賞された取組をはじめ、応募いただいた取組事例をご紹介します。



チェンジ・デザイン・アワード2021
グランプリ受賞

情報通信業

株式会社コムデック

住所：伊勢市小木町484-1
従業員数:11名
(うち女性従業員数：5名)

辞めない選択肢はテレワークで作る！

2016年から生産性の高い業務環境をめざして業務のクラウド化を進めていた株式会社コムデックでは、ライフスタイルの変化や家庭の事情により離職を検討せざるを得ない女性社員が多いという現状を変えるため、テレワークを導入しました。



社内と常にWEB会議をつないでいる様子



顧客との打ち合わせにWEBで参加している様子

配偶者の転職のため県外転居が必要になった社員、子育てのため決まった時間に出社・退社することが難しくなった社員、体調不良のため休職を申し出た社員など、以前であれば離職してしまうようなケースでも、テレワークを導入したことで柔軟な働き方を提案できるようになり、雇用を継続できるようになりました。

また、テレワークで課題になりがちなコミュニケーション不足を解消するため、月2回上長と1on1ミーティングを行い、仕事以外のことも気軽に相談できる環境を整えています。さらに、週1回好きな日に好きな時間だけ出社するルールを作り、他の社員とのコミュニケーションを維持している社員もいます。テレワークで働く社員からは、「自分のライフスタイルに合わせた働き方ができるようになり、子どもとの時間もしっかりとれるようになった」「勤務時間に対する成果をより意識するきっかけになり、より生産性の高い働き方を自分で考え実践していくようになった」という声があがっています。これからも多様な働き方に柔軟に対応し、これまでは離職せざるを得なかった社員がいきいきと働ける職場環境をめざしていきます。



代表取締役 樋口 雅寿さん



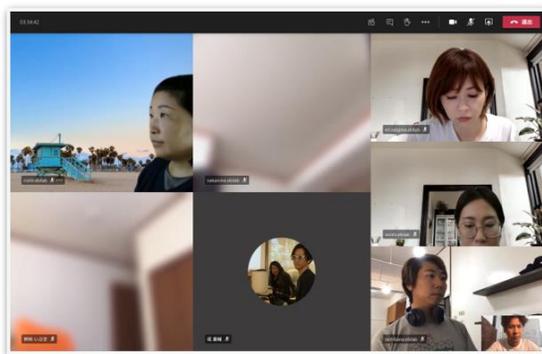
有限会社ゑびや

すべての社員にとって働きやすく、活躍できる職場

2012年からテレワークを取り入れている有限会社ゑびやでは、自宅と会社を常にWEB会議で接続し、会社での勤務と同じ感覚でコミュニケーションが取れる環境を作っており、日本中どこでも仕事ができる環境を実現しています。



テレワーク中の社員といつでもコミュニケーションが取れる環境



WEBミーティングの様子

テレワークを取り入れたことで、子育て中の社員は、子どもの体調が悪い時など急な家庭の事情で出勤ができなくなった場合でも、テレワークに切り替えることが可能となりました。子どもを自宅で看病しながら仕事を進めることができるため、優秀な人材が安心して能力を発揮できる職場環境につながっています。また、コロナ禍により店舗が休業となった際には、全社員にタブレットを配布し、オンラインで教育訓練を実施。休業期間を“より良いサービスを身に付ける期間”としてポジティブに捉え、自宅からテレワークで学ぶ挑戦をしました。その結果、アイデアを実践に移す方法を学んだキッチンスタッフが看板商品となる新メニューを開発したほか、サービス・接客を学んだホールスタッフはコミュニケーション検定に合格し、日頃の接客に生かしています。「テレワークは社員のパフォーマンスを最大限に発揮する手段の1つ」と考え、これからもすべての社員がワーク・ライフ・バランスをとりながら能力を発揮して働ける職場となるよう、テレワークの取組を進めていきます。



取締役 小田島 衣里さん (左)
シニアタスクマネージャー 西井 愛さん (中央)



あんしん経営株式会社

経理及び総務事務・人材派遣業

四日市市大井手二丁目4-9

柔軟な働き方で仕事も家庭も円滑に



あんしん経営株式会社では、従業員16名のうち15名の女性が働いています。ほとんどの従業員は家事や育児・介護と仕事を両立しており、昨年テレワークを導入したことで、家庭で用事がある日にも仕事を進めることができるようになりました。通勤時間がない分、時間を有効に使えることも従業員から好評です。現在は月に1・2回、本人の希望する日をテレワークとしていますが、今後は日数を増やしていく予定です。それだけでなく、子どもや親の同伴出勤など、さらに働きやすい職場づくりを進めていきます。

株式会社Eプレゼンス

情報通信業

四日市市久保田2丁目10-13杉善ビル1F

個々が理想のワークライフバランスを実現できる職場へ!!



Eプレゼンスでは完全テレワークを導入し、「ICT×女性×情報デザイン」のコンセプトのもと、「子育て中にキャリアが磨ける三重県へ」をテーマに掲げています。まずは自社内でいろいろな取組を行いPDCAサイクルを回しています。成果として、地元企業よりZoomの講師業務委託を受けサポートするなど、女性社員が地域社会で活躍する場が広がりました。また、クラウドサービスを活用し、チームでプロジェクトを運用、タスク管理、業務内容や作業スケジュールの共有を実施しています。今年はキャリアコンサルタントとの面談を行い、キャリアの棚卸で自分の強みを知るスキルマップを作成しました。キャリアアップの向上に努め、理想のワークライフバランスの実現に向けて一歩ずつ近づいています。

エイベックス株式会社

製造業

桑名市多度町下野代字谷3503-30

桑名市から世界に向けてリモート工場見学を開催



自動車用部品を製造するエイベックス株式会社では、コロナ禍への対応としてWEB会議の推進に取り組んでいます。3つの拠点の会議室を増設し、WEB会議ツールを活用することで業務を効率的に進めています。社内会議や顧客との打ち合わせなどは、WEB会議に切り替えたことで、人の移動を80%低減、ガソリン代や高速道路代も50%削減しました。また、コロナ禍以前は海外から年間4,500人の工場見学を受け入れ、産業観光に携わっていた同社では、この“つながり”を途絶えさせないために、新たに「リモート工場見学」を開始。20か国6,100人が参加するなど、アフターコロナを見据え新しい取組を進めています。従来の業務方法を見直しオンライン化を進めたことで、時間を有効に活用し業務を効率的に進められるようになったことはもちろん、WEB活用スキルの向上など女性をはじめ社員のスキルアップ・能力発揮にもつながっています。

株式会社エスト

デザイン制作業

津市東丸之内26-12MECビル4F

ライフステージに応じた働き方ができる職場づくり



長時間労働が当たり前とされるデザイン制作業界ですが、同社は5年前から労働環境の改善に取り組み、残業時間削減や有休取得率向上、時間有休取得などを実現してきました。また、社内では、デザイナー職・技術職として女性が活躍をしています。この先、ライフステージの変化によって、時間や場所を限定した働き方が難しくなることを考え、2年前からはリモートワークの環境整備にも取り組んできました。その結果、在宅勤務を余儀なくされたコロナ禍においてもスムーズに対応でき、次なる改善点も見えてきました。これからも、社内一体となって多様な働き方ができる職場づくりを推進していきます。

株式会社ゴーリキ

製造業

伊勢市大湊町1125-10

新しい働き方への取組



株式会社ゴーリキでは、社員へのノートパソコンやスマートフォンの貸与、社内データのクラウド保存、グループウェアでの情報共有、アプリによる勤怠管理、オンライン会議などを積極的に導入してきました。その結果、コロナ禍においては在宅勤務をスムーズに導入できたほか、ペーパーレスにより書類管理の事務作業の激減や、業務効率化により新商品開発や人材育成などに多く時間を持つことができるようになりました。また以前は、家族の看護などで有給休暇を取得する必要がありましたが、在宅勤務により有休を使わずに対応できるようになりました。これらの社内制度は、役員が参加しないライフワークバランス委員会が担当していて、社員主体で働き方改革を継続して行っています。将来は、工場作業員も在宅勤務が可能になるよう、加工機械やラインのロボット化を進めています。

株式会社中部システムセンター

卸売・小売業

津市一身田平野175-1

柔軟な働き方で時間を創出し、キッチンカーを営業



働き方改革コンサルティングやITサポートなどを行う株式会社中部システムセンターでは、さらなる「生産性向上」「柔軟な働き方」「自分らしい活躍」を目指し、働く場所を自由に選べるテレワークを促進しています。クラウドサービスの導入やペーパーレスの推進、Zoom やLINE の活用などにより、出社や顧客先に訪問しなくても、業務運営や顧客対応が可能な体制を構築しています。その結果、移動時間が無くなるなど生産性が圧倒的に向上し社員自ら労働時間をコントロールすることでワークライフバランスが高い次元で実現しています。また、空いた時間を活用して本業以外のパラレルワークに挑戦する社員（事務職とキッチンカーの営業等）も出てくるなど、社員が能力を発揮できる職場環境につながっています。

ナカハマデンタル

歯科医院

津市久居野村町516-6-1

在宅勤務から誕生した地域の健康を守る取組



津市・松阪市北部エリアで高齢者や障がいのある方への訪問歯科診療を行っているナカハマデンタル。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言で歯科衛生士全員が自宅待機となった際に、自宅から社会に向けて発信できる取組として、自宅で作れる口腔ケアの方法や、ドラッグストアで買えるおすすめ商品を紹介するフリーペーパーを発行しました。自宅にパソコンが無かったり、ITリテラシーが低いメンバーも多いため、フリーペーパーは全て手書きで作成。ビデオ通話アプリで打ち合わせをしながら、各自が担当ページを色鉛筆で手書きしました。フリーペーパーは1,000部作成し、津市・松阪市北部の介護施設・障がい者施設に郵送で配布しました。この取組は、さまざまなメディアに取り上げられ、多くの問い合わせと感謝の声が届きました。医療機関のため、継続的にテレワークを行うことは難しくても、活動を自粛しながらも地域の健康を守るために考えた取組です。

株式会社光機械製作所

製造業

津市一身田中野8-1

100人100通りの働き方



株式会社光機械製作所では「100名の社員がいる＝100通りの働き方がある＝いい」という考え方で、働き方の制度を個人の事情に合わせて個別に運用しています。技術職の採用が難しい状況下において、機械設計チームの社員に負荷がかかりがちな状況でしたが、子育てと両立しながら在宅で業務をしたいと希望した女性社員の活躍により負荷の軽減につながっています。また、在宅ワークでは社内よりも業務に集中することができ、1日4時間の勤務であってもより大きな成果につながっています。社会の変化が大きく働き方が多様化するなか、他の社員に対してもライフイベントによりキャリア形成が途絶えないように、テレワークを含め新しい働き方ができるように、人事担当の女性社員がテレワークを試験的に実施し、問題点の洗い出しや必要なツールの検討を行い、より良い仕組みづくりを構築しています。このような柔軟な仕組みにより多様な人材が活躍できる会社を目指しています。

株式会社ビコーインプレス

建設業

四日市市大字羽津4350-1

どんな場合でも、安心して働ける職場づくりを！



株式会社ビコーインプレスでは2～3年前からテレワークを取り入れており、広島県と東京都のオフィスとも常にZoomで接続し、朝礼や会議で活用しています。今では全員のパソコンで会議を行うことができるほか、全社員にスマートフォン、タブレットを支給し、スマートフォンからタイムカードの打刻、直行直帰の勤務も可能としています。社員35名のうち女性が15名在籍し活躍している同社では、現在、一人の女性社員が育休中であり、テレワークで仕事の連絡をしています。同社では、年に2回ほど社長の社員個人面談があり、仕事や家庭の悩みなど社長が受け止め、それを一般化して同社のモットーである「安心して勤務」のシステムに組み込んでいます。

株式会社百五銀行

金融・保険業

津市岩田21-27

在宅勤務で女性活躍を応援



百五銀行では、従業員一人ひとりが最大限の能力を発揮し、活躍できる職場環境を整備することを目的に、在宅勤務制度を導入し、育児と仕事を両立する女性行員の活躍の場も広がっています。

具体的には、子育て中の女性行員が、週2日程度在宅勤務制度を活用し、短時間勤務を選択することなく、フルタイムで勤務している例や、在宅勤務制度を柔軟に取り入れることで、通勤距離を気にせず、津市に集中している本部への配属が可能となるなど、業務経験の幅を広げる機会が増えた例があります。

また、男性の育児参画の面では、在宅勤務を活用することで、出張先との直行直帰が可能となり、短縮した時間で、男性行員が家事や育児に積極的に参加する機会が増え、パートナーである女性行員の活躍支援にもつながっています。

前野段ボール株式会社

製造業

四日市市白須賀1丁目15-10

時代と環境に応じた、働きやすい職場を目指して



部屋や拠点間を繋ぐモニターを設置

新型コロナウイルスの感染リスクの低減を目的にリモートワークやWEB会議を導入しました。リモートワークやWEB会議に必要なパソコンやアプリ、周辺機器の整備のほか、使用マニュアルの作成やテスト運用などを経て運用方法を確立。リモートワークにより外出時でも業務が滞りなく行うことができ、会社に戻ってから行う業務の減少につながっています。社員のほぼ半分が女性ということもあり、出社が難しくても在宅で仕事ができることで、今後育児・介護をしていく社員が何らかの理由で家に短期間いなければならない状況でも、仕事が継続できる、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

マツオカ建機株式会社

建機レンタル業

三重郡川越町当新田17

テレワークで働き方と意識が変化



以前よりテレワークを検討していたところ、新型コロナウイルスの影響で急遽対応することとなり、まずは事務職から在宅勤務を導入しました。また、営業職はサテライトオフィスとして近い拠点で業務が行える体制を整備しました。在籍している拠点への出社が前提だった考え方が変わり、移動（通勤）時間の短縮や職場での密の軽減につながりました。また会議等をオンラインで開催することが多くなり、会議室等への移動時間の短縮など、業務の効率化にもつながっています。さらに、県外から通勤している女性社員は、在宅勤務により通勤にかかっていた時間を子どもや家庭のことに使えるようになるなど、より家庭と仕事の両立がしやすい職場環境が実現しています。

株式会社松阪電子計算センター

総合情報処理サービス業

松阪市石津町353-1

テレワークで増える家族の時間！



自治体向け業務システム開発を行っている株式会社松阪電子計算センターでは、2018年よりモバイルワークの導入準備を行ってきました。2019年には本格的にテレワークとして運用できるよう、オンライン会議システムや大型ディスプレイ、社員同士のコミュニケーションのためのオンラインツールの環境整備を進めました。その結果、コロナ禍でもスムーズにテレワークに移行することができ、部署によってはメンバーの半数以上がテレワーク勤務を利用しています。テレワークを導入したことで、通勤時間が無くなり、業務効率が上がるほか、子どもを学童保育に預けなくてよくなったという女性社員の声が上がっています。また、女性だけに限らず、子どもの長期休暇時には、男性も子どもを見ながら仕事ができ、例年夏休みに子どもを祖父母に預けている家庭から「少しの間だけでも祖父母の負担を減らすことができてよかった」と好評の声が上がりました。

株式会社ミッドランド経営

経営コンサルタント業

四日市市久保田1丁目6-8

働きがいのある仕事環境と働きやすい職場環境を整備



在宅勤務ができる環境を整えるため、機器の整備とともに書類のクラウド化によるペーパーレスを進めました。ペーパーレスが進んだことで、顧客データの取り扱いや守秘義務に留意して在宅勤務を行っています。また、家庭や子どもの学校行事などの事情に合わせて1日だけでなく半日の在宅勤務やフレックスタイム・時間有給休暇の活用など自由な働き方で、社員の家庭と仕事の両立を支援しています。

Webワープロフィス



事務機の販売や保守を行う株式会社四日市事務機センターでは、内勤者は輪番で在宅勤務を実施しています。また、産休明けの育児環境整備の一環としても運用しており、産休明けから1年間は週3回を在宅勤務、2回を出勤とすることで、コミュニケーション不足の改善や心身のケアにつながっています。さらに子どもが急病の時も有給休暇とするのではなく、在宅勤務が可能な制度としており、育児と仕事の両立を促進しています。また、テレワーク環境を常時接続とすることで、リアルタイムに相談や状況把握が可能としているため、テレワークの問題点も軽減できています。テレワークの導入が社内データのクラウドシステムへの移行や柔軟な企業経営につながっています。

リコージャパン株式会社三重支社

テレワーク×チームワークで生産性UP！



「はたらく」に「遊び」をビジョンとし、デジタルサービスを県内企業へ提供するリコージャパン株式会社三重支社。全国でリモートワークを率先導入し、働き方変革を推し進めてきました。また、ダイバーシティにも力を入れ、職種・ロケーションを問わず女性活躍の場を積極的に増やしてきました。社内改革では多くの女性社員が自主的に参画する「働き方改革プロジェクト」が軸となり、子育て両立支援やES向上・健康経営への取組など、コロナ禍により加速した改革に女性社員の活躍とノウハウが多く採用されています。テレワーク環境の整備により、営業・業務効率を向上させながら多様な働き方に柔軟な対応をすることができ、子育てや介護などのライフイベントに関わらず、社員がイキイキと働き続けられる職場環境につながっています。現在は、自社の実践事例ノウハウを発信し、県内企業・自治体の働き方改革・デジタル化推進に寄与し続けることを目標に取り組んでいます。

凜九（りんく）

「伝統工芸×テレワーク」伝統の中の新たな挑戦



東海3県の伝統工芸の女性職人グループである凜九は、「自身の制作時間を確保することを優先する」「最小限の時間や投資で、最大の成果を出すためにどうするべきか」という考えから、打ち合わせはオンラインが中心、必要な書類もネットワークで共有しています。普段からこうした取組をしていたため、家族の転勤に伴う転居の際も、リモートで活動を継続することができました。伝統工芸のニーズが減り、多くの人に知られていない現状では、職人自身が伝統工芸を発信しアピールしていく必要がありますが、そのノウハウも時間などの余裕もありません。そのような中、離れた地域にいる若手職人が知恵を出し合い、協力することができるのは、テレワークがあるからこそ。「テレワークは、大手企業だからできるのではなく、自分たちのような力のない組織こそ、積極的に取り入れることで新たな可能性を模索し挑戦できるツールです」。テレワークのおかげで百貨店の催事出店や美術館とのコラボ展などにつながっています。

三重県は「HeForShe(ヒーフォーシー)」(男女格差を女性だけの問題にせず、男性も女性も共に考えて行動しようというUN Women(国連女性機関)主導の世界的な連帯運動)に賛同しています。「仕組み」を変えることで「行動」につなげる「チェンジ・デザイン・アワード」の取組は、三重県と「女性の活躍推進三重県会議」が「HeForShe」の趣旨に基づき行うものです。



「HeForShe」への賛同セレモニー（2018年10月）



三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課

〒514-8570 津市広明町13番地

TEL：059-224-2225 FAX：059-224-3069 Email：iris@pref.mie.lg.jp